

研究区分：若手研究

明治国際医療大学における災害対応マニュアル
柳 聖美【救急救命学科】

【背景】

日本では年々、地震、台風、豪雨、大雪、噴火といった自然災害が増加傾向にあり、内閣府の発表によると1年のうち9月から12月にかけての災害発生件数が多いことから、いつどのような場面で自然災害に遭遇するか分からない。

自然災害が増加傾向にある中で、実際に危機感を持ち、防災対策をしている人がどのくらいいるのかについて内閣府が調査した結果、防災対策を「している」と回答したのは、わずか3割しかない状況である。

現在、明治国際医療大学では災害対応マニュアルが策定されておらず、災害時に迅速な対応ができない状況となっている。明治国際医療大学の学生・教職員の身の安全の確保を確実に行うためにも災害対応マニュアルの策定は必須の課題となってくる。

【目的】

明治国際医療大学の災害対応マニュアルの作成

【方法】

《研究1》施設内備蓄品の確認と検討
・施設内にある備蓄品の個数、状況等の確認
《研究2》災害発生時の組織体制の検討
・災害本部の設置基準、設置場所、各対応業務の責任者の検討
《研究3》学生、教職員の安否確認方法の検討
・災害本部を起点に学校業務の復旧や被害状況の情報収集を行うと同時に、学生や教職員が学外にいる場合でも安否確認ができるような連絡体制を検討する。

【結果】

《研究1》
本学に災害時に使用できる保存水、保存食、防寒用品、衛生用品等ない。
《研究2》
災害発生時の組織体制に関して詳細な事項は決まっていない。

【考察】

《研究1》
本学に災害時に使用できる保存水、保存食、防寒用品、衛生用品等ない。そのため、大規模災害が発生した際に、予想される必要備品(全学年対象)を考案する。
●ミネラルウォーター500ml×5000本
●アルファ米×4000食
●アルミヒートブランケット×2000枚
●排便収納袋×2000回分
《研究2》
②災害発生時の組織体制に関して詳細な事項は決まっていない。そのため、災害発生時の組織体

制について考案する。災害対策本部の設置基準を下記に示す。

●震度6以上

⇒本学所在地において深度6弱以上の地震が発生した場合には、災害対策本部を設置する。

●深度5弱から5強

⇒施設の被害が甚大であったり、ライフラインが不通になった場合など、被害状況等を踏まえ、学長の判断により設置する。

●県外で大地震が発生した場合

⇒県外における大規模地震の発生により、本学の学生、教職員に死傷等の被害が出る恐れがある場合に設置する。

また、災害対策本部に各班を設置する。業務内容を以下に示す。

1. 総括連絡班

(1) 災害対策本部の業務全体を把握し、総括する。

(2) 学内・学生・教職員の状況を把握する。

(3) 災害対策本部の決定事項や得られた情報等を各部局等に伝達する。

(4) 教職員の安否確認を行う。

(5) 関係機関との連絡調整

文部科学省(国立大学法人支援課)、京都府、南丹市等の関係機関と連絡を密にし、災害対策について連絡調整を行う。

(6) 部局等から教職員の派遣要請があった場合は、派遣できるよう全学的な調整を行う。

2. 物品管理班

(1) 備蓄品の保管のための場所を用意し、物資を管理する。

(2) 救援物資等の搬出入及び保管のための場所を確保する。

(3) 他大学、地方公共団体からの救援物資等を受け入れる。

(4) 物品・資産の被害状況を調査し、とりまとめ及び報告を行う。

(5) 災害時に提供する施設・物品・資産の使用許可手続きを行う。

3. 施設管理班

(1) 施設、設備及び土地の被害状況を把握する。

(2) 二次災害の恐れのある施設等については、直ちに立入禁止等の措置を取り、応急措置を施す。

(3) ライフラインを確保する。

電気、ガス、水道、電話等ライフラインの早期復旧に努める。

(4) 関係機関との連絡調整

文部科学省(防災推進室)と連絡を密にし、施設等の被害状況等について連絡調整を行う。

4. 学生班

(1) 学生の安否確認を行う。

(2) 学生の課外活動の状況の把握に努め、必要な指導を行う。

(3) 学生の学内外でのボランティア活動の状況

の把握に努め、必要な指導を行う。

(4) 授業の再開等について、学内の連絡調整を行い、教員・学生に対して漏れなく連絡する。

《研究3》

学生、教職員の安否確認方法はポータルサイトなどを使用し行うことを考案する。ポータルで行うことにより、学校側が学生・教職員情報の把握がしやすくなる。

【結語】

明治国際医療大学では、災害発生時の組織体制、備蓄などがなく危惧すべき状況である。そのため、災害対応マニュアルの作成が求められる。

【謝辞】

本研究は明治国際医療大学大学内研究助成を受けたものである。